



大分市報

毎月1日15日発行
発行所 大分市役所
編集兼发行人 安玉彦
印刷所 高木印刷KK

大分市制
50周年記念
特集号

大分市制50周年を 迎えるにあたり

大分市長



上田保

大分市制50周年を

祝福して



大分市議会議長

川上勘一

大分市議会議長

写真説明 || 大道付近の
上空約一五〇メートルからみた大分市

わが大分市は明治四十四年四月一日、人口三万一千人で市制施行し、来る四月一日をもつて五十周年を迎えたことは既に述べたところである。この間幾多の消長、う余曲折を経て今日に至つたものだと思います。それでも私共の記憶に新しいあの戦災に遭遇し、市民ひどく苦しめた結果、昔日の市形態を一變して復興し、今や東九州に於ける陸海空の交通の要衝として、かつ双商都市として、かくありますことは衆目の認めるところ民は重い喜びを迎えることにな

大分市議会議長

わが大分市は明治四十四年四月一日、人口三万一千人で市制施行し、来る四月一日をもつて五十周年を迎えたことは既に述べたところである。

これひとえに、大分市議会議長

大分市議会議長

昭和24年5月23日
(第三種郵便物認可)

第354号

大分市報

昭和36年4月1日 (二)

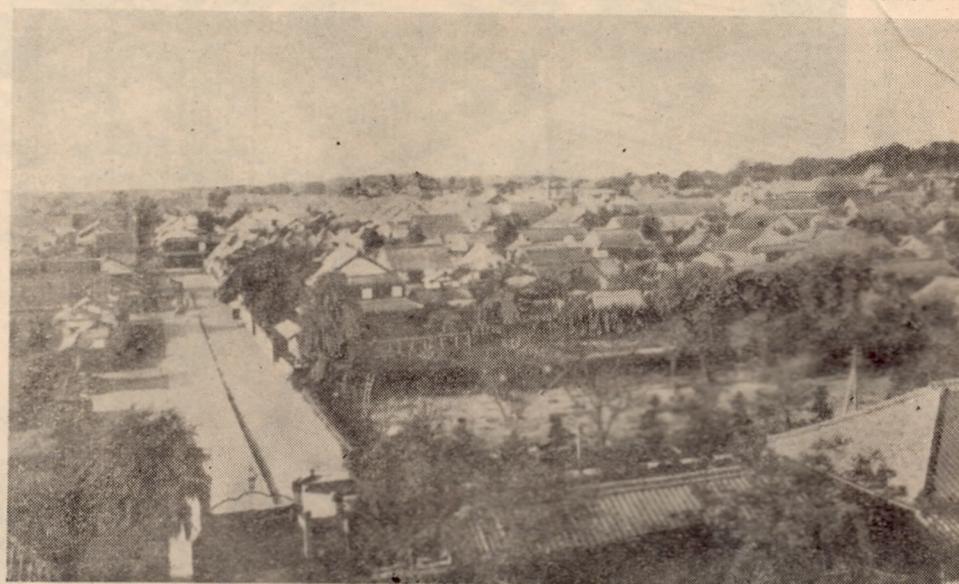


←説明：歴代城主の居城として栄えた白雉城
(戦災前の県庁南門付近)



→説明：上市町にあつた焼失前の大分
市役所
(昭和六年頃)

写真特集 目でみる市制50年の歩み



↑説明…明治四十四年四月一日大分町が市制を施行して大分市となる(市制施行当時の大分市、於北町の元裁判所から市内を望む)



→説明：今も昔も商店街として栄える竹町
(大正初期の頃)



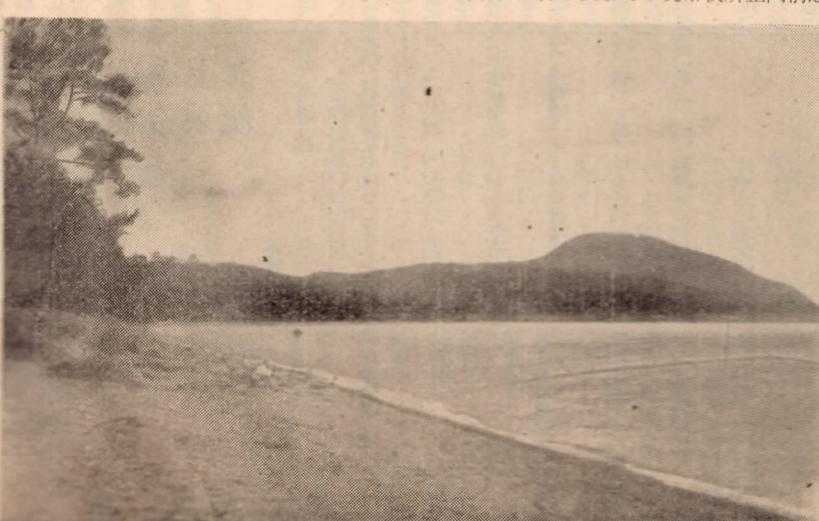
↑説明…チンチン電車もなつかしい大正七、八年頃の中央通り(電車の右の通りが竹町の入口)



説明：戦前のメイン・ストリート中央通り
(昭和十五年頃)



↑説明…県庁前にあつた家老屋敷の跡には、市役所や教育会館が建ちならび、もはや当時の面影をしのぶよすがもない(昭和の初め頃までの現市役所正門前通り)



←説明：石油基地や西日本電線などで知られる今の春日浦も、明治の頃まで白波よせる淋しい海岸にしかすぎなかつた。



年表 大分市50年史

明治44年	・4月 大分町が市制を施行し大分市となる。当時の人口31,249人・10月 日豊本線門司一大分間開通
大正3年	・4月 豊肥線大分-中野田間開通
大正4年	・10月 久大線大分-小野屋間開通・御大典記念連合祭事共進会開催・11月大分港築港完成
大正6年	・5月 市立商業学校開校・7月 大分市役所西上市町へ新築・大雨により、大分川洪水
大正7年	・8月 大分連隊シベリヤへ出兵、翌8年2月田中支隊300名、ユフラで全滅
大正10年	・2月 大分県庁落成・12月 大分高商開校
大正11年	・2月 東大分の一都市へ編入、4月大分工業開港
大正12年	・12月 日豊本線全通
大正14年	・歩兵第47連隊小倉から大分へ移転
昭和2年	・6月 電話局を荷揚町へ新築・7月 一般家庭へ上水道の給水を開始・11月 大分港第二種重要港湾の指定を受く
昭和3年	・12月 豊肥線全通
昭和5年	・4月 第二高女開校
昭和8年	・1月 歩兵第47連隊満州へ出兵
昭和9年	・11月 久大線全通
昭和11年	・5月 常備消防を設置・10月 トキハ・テバト開店
昭和12年	・3月 現市庁舎完成・翌13年 海軍航空隊開設
昭和14年	・8月 八幡村、滝尾村、東大分村三村を合併
昭和16年	・6月 NHK大分放送局開局
昭和17年	・4月 豊州新報、大分新聞合併し、大分合同新聞となる。・12月主食の配給始まる
昭和18年	・11月 日岡村を合併
昭和20年	・3月 16日第一回の空襲を受ける。7月16日夜の大空襲で市の中心部の大半を焼失(被災家屋3,26戸)・10月米占領軍大分へ進駐
昭和22年	荷揚小より学校給食始まる・8月 竹町の夜市・年ぶりに復活
昭和23年	・2月 日本銀行大分支店開設・5月 県営球磨竣工・12月モデル都市として指定さる
昭和24年	・6月 ザヴィエル遺跡巡礼団来訪、ザヴィエル来400年祭を挙行・6月 天皇陛下ご巡幸・8月 市営プール完成
昭和25年	・4月 大分港臨港線開通・市営陸上競技場完成・6月全日本地域対抗陸上競技開かる・7月 建大臣より復興事業が優秀であると表彰さる・8月 大分鉄道管理局開設・9月 大分新聞創刊
昭和26年	・3月 若竹公園、遊歩公園完成・5月 大分学開校
昭和27年	・3月 若草公園、シャングル公園完成・10月 九州連合畜産共進会開かる・11月 下郡の市営葬場使用開始・上田市長高崎山でサル寄せのホラを吹く・翌28年3月墓地公園完成
昭和28年	・4月 全国公園緑地会議開かる・6月 大雨より舞鶴橋も流失・10月 ラジオ大分放送を開・9月 高崎山自然動物園が国立公園へ編入さる
昭和29年	・9月 舞鶴橋完成
昭和30年	・1月 庄の原と芳河原大分市へ編入さる・3月 大道トンネル開通・7月 桃園地区と高崎の一大分市へ編入
昭和31年	・5月 日本植物園協会総会開かる・11月 上市長ローマへ出発
昭和32年	・3月 舞鶴総合グラウンド完成・3月 大分港開設
昭和33年	・4月 新大分駅完成・植樹祭へご臨席の天皇陛下、荷揚町小学校と高崎山自然動物園をこよ・6月大分電話局昭和通りに新築、自動電話へかけ・7月 大友宗麟像復元さる
昭和34年	・3月 大分刑務所煙中に完成・田室跨線橋完成・8月 NHK大分テレビ開局・9月春日浦石油基地地理立完成・10月 ラジオ大分テレビ開局・12月 新光てん菜糖操業開始
昭和35年	・5月 府内大橋完成・7月 日本トライアゴン操業開始
昭和36年	・2月24日 富士製鉄と工場建設について協定調印す・4月1日 市制施行50周年を迎える

歷代市長

歷代市議會議長

「…そこからに発展していきました。その後、鎌倉幕府が創設され、國司に代つて地方の兵權を握る守護が全國に配置されて以来、初代大友能直から第十九代義統に至るまで約四〇〇年間、大友氏は府内(今の大分市)に君臨しました。とりわけ、第二十一代義鎮(大友宗麟)は最も傑出した武将で神宮寺浦(今の春日浦)を中心としてボルトガル船、明船と外国貿易を始め、またわが国にはじめてキリスト教を傳布するなどして、松平近讐の時代に明治の親政を亡しました。

中、日根野の四氏の更迭が行なわれており、その間福原氏の荷揚城、竹中氏の都市計画などの功績があげられます。が、いずれも必ずしも落成せられず悲惨な運命をたどりました。続いて徳川の親藩松平忠昭た。続いて徳川の親藩松平忠昭た。続いて徳川の親藩松平忠昭た。続いて徳川の親藩松平忠昭た。

名づけ親は景行天皇

文化の華咲く宗麟時代

市勢の移り変わぬ

「大分」の歴史

現在の大分市の地域沿革をたどりてみると、明治八年、一町十一村に分れていたのを明治三十一年四月一日町制施行とともに町一村に改め、更に明治四十年四月、大分、西大分の二町と祥隈、豊府の二村を合併して「大分町」とし、明治四十四年四月一日市制を施行して「大分市」となりました。

当時は人口三万一千三百四十九人、戸数五千一百八十二戸といわれていますから現在の大分市の四分の一一位の規模で満足したわけです。その後大正十一年二月東大分村に属していた大分川左岸地域を市内に編入し、昭和十四年八月十五日、大分郡八幡村、滝尾村、東大分村の三村を合併、次いで昭和十八年十一月十一日には大分郡日岡村を合併しました。

更に昭和三十年一月一日、町村合併促進法により大分郡資来村（庄の原）と東種田（芳河原）の一部が編入され、統いて同年七月一日大分郡挾間町大字高崎の一部並びに鷹崎市桃園地区の一部が編入され現在に至りました。

現在の面積は六十五・〇九平方キロメートル

沿地域
の革

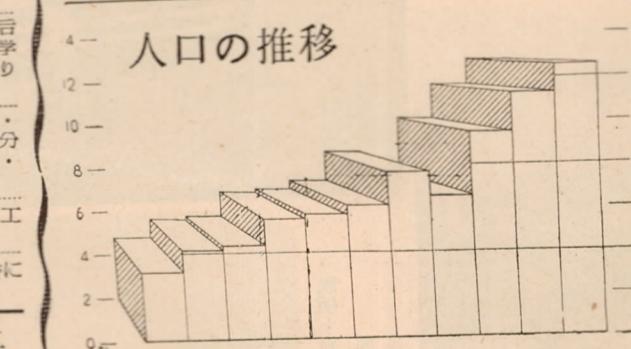
— 1 —

上卷 · 治世



人口の推移

将来は50万都市



昭和 15年 10年 14年 9年 4年 大正 44年 昭和
百余で面積は、水道課では昭和三十五年度分水道
料金取扱報償金を差し上げるため、約六十五平方
キロメートルとなつていま、納付証明票を整理いたしますので、
納税貯蓄組合の方で証明票をお持
ちの方は四月十日まで同課料金係へ提出して下さい。

水道料の報償
金を差しあげ
ます

スマートな町大分市ができあがました。

飼犬の登録

卷之三